

桜島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

＜火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続＞

昨日（8月18日）、16時31分に昭和火口で発生した爆発的噴火による降灰は、鹿児島市内から薩摩川内市甑島にかけての広範囲で確認され、鹿児島市内では多量の降灰により、公共交通機関が一時運転を見合わせるなどの影響が発生しました。

今のところ大規模な噴火が発生する兆候は認められませんが、昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

平成 24 年 3 月 21 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）の切替を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・降灰の状況（図 1～図 3）

昨日（18日）16時31分に爆発的噴火¹⁾が発生し、多量の噴煙が火口縁上 5,000mまで上がり北西に流れました。この噴火に伴い、鹿児島地方气象台が、18日および19日に実施した現地調査および聞き取り調査の結果、昨日の噴火により、桜島島内を含む鹿児島市内から薩摩川内市甑島にかけての広範囲で降灰が確認されました。

・地殻変動の状況（図 4）

有村観測坑道の水管傾斜計および伸縮計（大隅河川国道事務所設置）では、14日頃から山体がわずかに隆起・膨張する傾向が認められましたが、昨日（18日16時31分）の噴火により沈降・収縮しました。その後はゆるやかな沈降・収縮の傾向が継続しています。

1) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または气象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としています。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、九州地方整備局大隅河川国道事務所、京都大学のデータを利用して作成しました。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』、『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。



図 1 桜島 鹿児島市内方向へ噴煙が流れている状況（左図、18 日 17 時 45 分頃）
鹿児島中央駅付近の降灰状況（右図、18 日 17 時 10 分頃）



図 2 桜島 鹿児島市内での降灰の状況

左上図：鹿児島市易居町における降灰の状況（18 日 18 時 45 分）

右上図：鹿児島市松元町における降灰の状況（18 日 19 時 10 分）

左下図：桜島島内・袴腰における降灰の状況（18 日 20 時 34 分）降灰量は 1 m^2 あたり約 1 kg^*

右下図：桜島島内・赤水展望広場における降灰の状況（18 日 19 時 35 分）

降灰量は 1 m^2 あたり約 4 kg^* （厚さ 5 mm ）

※桜島島内で観測した降灰量は、18 日以前に堆積したものも含んでいます。

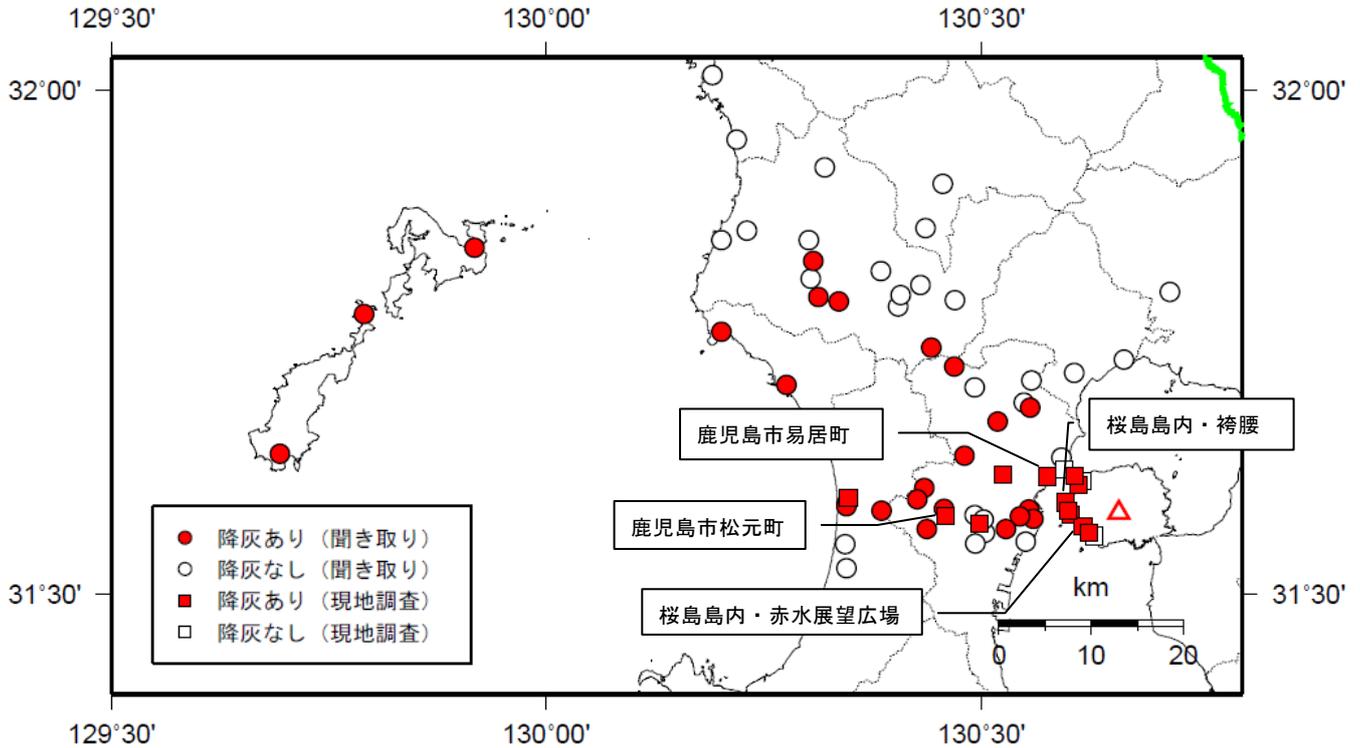


図 3 桜島 降灰が確認された地点

鹿児島地方気象台による現地調査および聞き取り調査の結果、昨日（18日）の噴火により、桜島島内を含む鹿児島市内から薩摩川内市甑島にかけての広範囲で降灰が確認されました。

有村観測坑道傾斜計・伸縮計(潮汐補正分値)
2013/08/10 00:00 - 2013/08/19 12:00

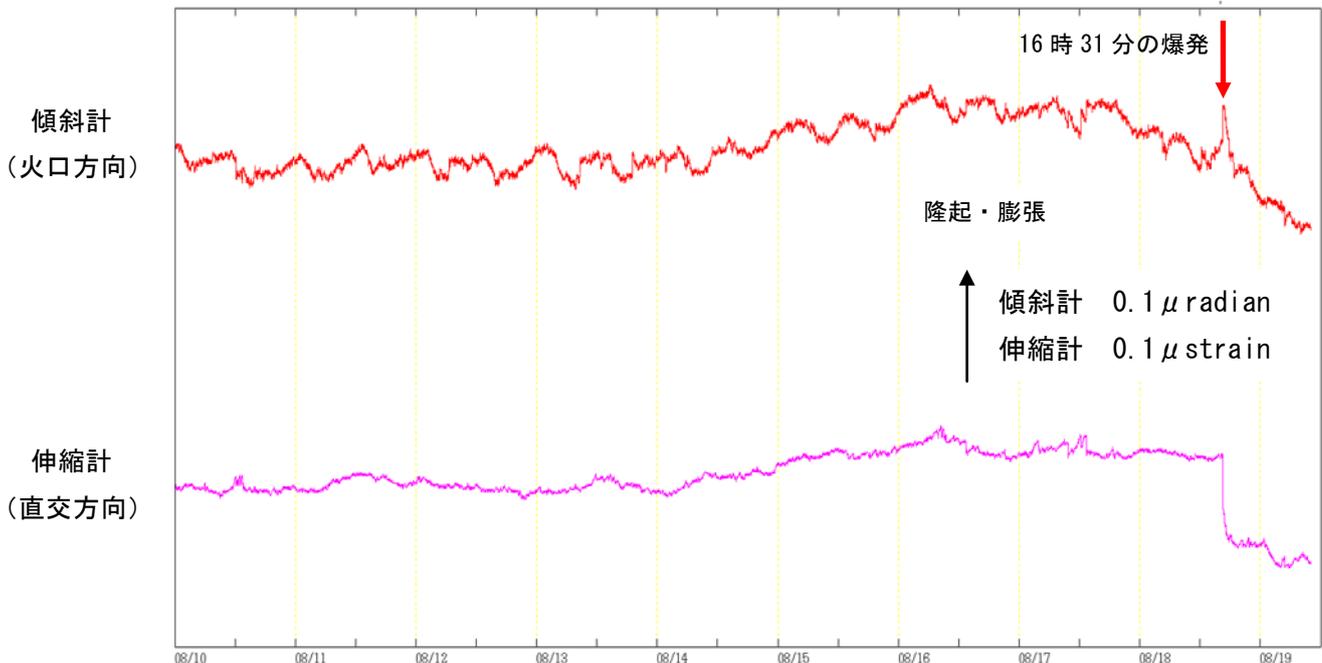


図 4 桜島 地殻変動の状況（2013年8月10～19日）

14日頃からわずかな山体の隆起・膨張する傾向が認められましたが、昨日（18日）16時31分の噴火により、沈降・収縮しました。その後はゆるやかな沈降・収縮の傾向が継続しています。

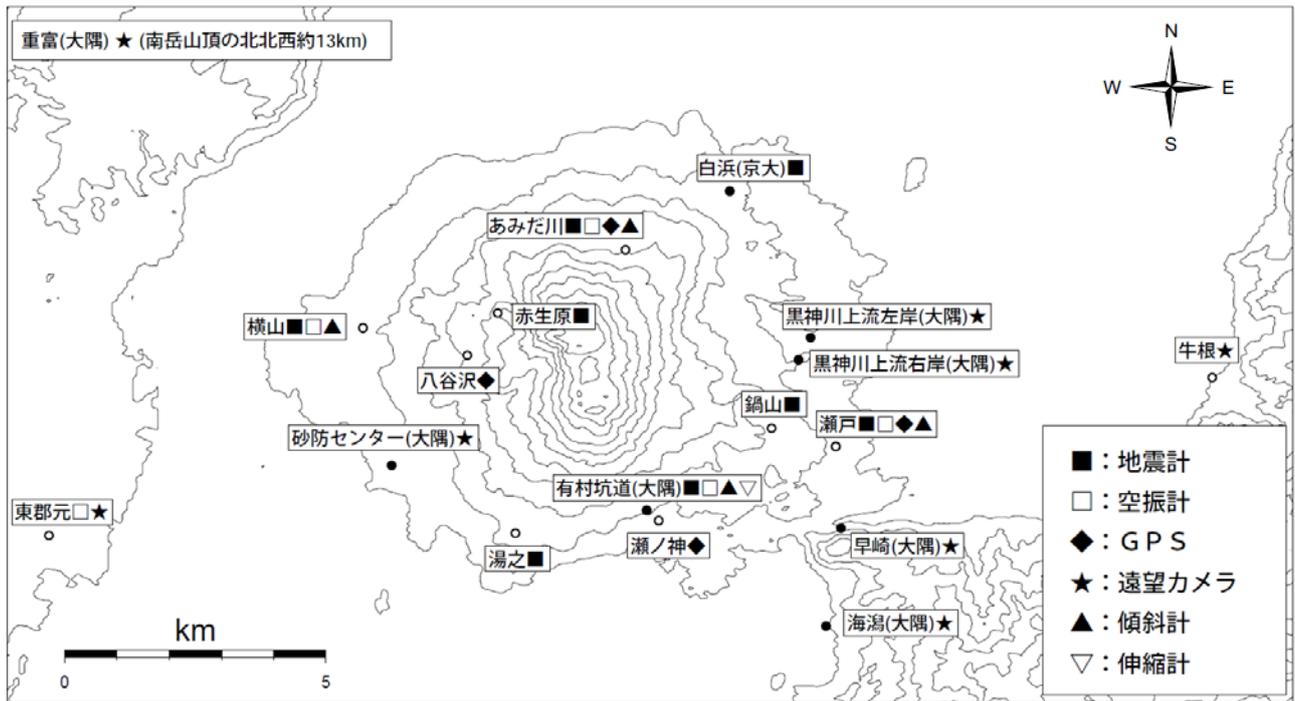


図 5 桜島 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(大隅) : 大隅河川国道事務所設置、(京大) : 京都大学防災研究所設置